

(様式第3号)

SDGs達成に向けた具体的な取組 (要件2)

カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
人権・労働	□	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	・雇用、教育、昇進、登用、福利厚生、などあらゆる雇用条件で差別しない体制を構築。また今後社員ヘルプラインを設け、差別を起こさせない体制を整える取組をしている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8	10.2 10.3					16.1 16.2 16.7			
	□	【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・ハラスメント禁止を就業規則に明記の上、管理者へ研修を通じた再教育を実施予定。また社員ヘルプデスクを設置し体制を整える。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8						16.1			
	□	【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・「勤怠管理システム」により長時間労働の防止管理を実施。各部署で「働き方改革」の取組を行い、状況に応じた「シフト勤務」「時短勤務」を導入。またお客様や従業員のニーズに合わせた「柔軟な勤務体制」を取り入								8.5 8.8									
	□	【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	・2019年、外国人労働者を1名採用。労働環境を整え人権侵害が起きていない事を確認している。				4.4				8.7 8.8	10.2 10.3								
	□	【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・定例・随時「労働安全衛生委員会」及び「責任者会議(月1回)を兼ねた「衛生推進者会議(店長)」を開催、朝礼や社内報を活用し労働環境整備を図っている。								8									
	□	【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・全社員対象に年1回のストレスチェックの実施、および状況に応じ希望者へ産業医面接を行い、社員のメンタルヘルスマネジメントを行っている。																	
	□	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・外国人採用、女性エンジニア採用に伴い、ハード面(更衣室等)の改善等を含め、環境整備と改善へ努めている。					5.1 5.5			8.5	10.2 10.3								
	□	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・職種や役割に応じた研修を整備・人材育成を図っている。				4	5.5			8	9								
	□	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	・専任部署で法改正の対応も含め、公平・公正な待遇に努めている。					5.5			8.5	10.2 10.3								
	□	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	・社員の心身健康管理の為、2020年より健康管理課(人事部管轄)を新設。社員健康診断管理の他、家族検診補助制度の運営。メンタルヘルス定期チェック等で社員の健康管理を実施。今後健康経営にも取り組み社員の働き									8								
環境	□	【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	2021年より電子マニフェストを導入し、全店舗分の排出～最終処分まで管理。廃棄期限のアラーム通知等、漏れの無い処理管理を行っている。										11.6	12.4		14.1				
	□	【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	エネルギー使用量については管理を実施しており、現在、温室効果ガス排出量を算出中。							7.3					13					
	□	【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	現在温室効果ガス排出量の算出中であり、分析が完了しだい、具体的な対策を講じる予定。							7.2 7.3				12.4	13.3					
	□	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	・取扱い商品の安全データシートを管理部で保有(現場でもWEB確認可)し、在庫・使用・破棄状況を管理部と店舗で共有管理の上適切に対応している。				3.9		6.3				11.6	12.4						
	□	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・環境に配慮した塗料、洗浄剤の使用をはじめ、生態系に悪影響をおよぼすことのないよう努めている。						6.6								15			
	□	【3Rの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・廃車自動車を共同組合のリサイクルセンターへ提供し、部品のリユース、リサイクルに繋がるように取組んでいる。												12.5		14.1			

17	□	<p>【水の管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる 	チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001規格を独自マネジメント化して管理。また大量の水を使用する洗車には、雨水利用により使用量の削減へ努めている。 						6.4	6.6												
----	---	--	-------	--	--	--	--	--	--	-----	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																					
18	□	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	・ISO14001規格を過去に取得し、現在その規格を独自マネジメント化して取組んでいる。			3.9			6	7				12	13.3	14	15			
19	□	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ	・環境への取組に関し、HPをメインに開示している。状況によっては新聞、TV、雑誌、ラジオ、その他スマホ等を活用し開示している。										12.6							
20	□	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	・一部の施設に太陽光発電システムを設置し再生可能エネルギー利用に取り組んでいる。またバイオマス発電に合弁事業者として取組をし、再エネ利用に向け取組を行っている。							7.2					13					
21	□	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	・太陽光発電、雨水利用洗車等、可能な業務へ天然資源の利用へ務めている。また社有車のMIRAIをはじめ、今後の水素資源の利用普及に向け、メーカーと共に取組を行っている。										12.2	13	14	15				
22	□	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	・社内規定を常時整備し、幹部会議を通して社内浸透を図っている。新たに監査機能として社内組織に監査部を設立した事、また現場監査や責任者チェックを定期的に行い、コンプライアンスマインドを絶やさない取組を行っている。															16	16.5	
23	□	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	・幹部会議を通して不正行為に携わらないよう社内浸透を図っている。																16	
24	□	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	・知的財産については、他社侵害を起こさないよう、事業関連部署間で2次チェック、3次チェックを行い、法令上の保護へ努めている。								8.2	9								
25	□	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	・「個人情報に対する基本方針」を定め公表体制を整備している。幹部会議で情報管理ルールや顧客データ管理の周知徹底、特に会社貸与スマホは取扱いに厳重注意を図っている。																16	
26	□	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	・定期的に各組織長へ確認の下、取り扱っていない事を確認している。																16	
27	□	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	・グループ内のサプライヤー間は元より、事業パートナーに対しても認識を共有の上、適切に取り組んでいる。					5			8		10	12	13	14	15	16	17	
28	□	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・社内で定期的な製品、商品研修を実施し社員知識の向上を図ると共に、お客様へ「安全留意事項説明」「重要事項説明」による確認署名の受領スキームを構築している。			3.9								12.4						
29	□	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	・社員研修による向上計画をはじめ、お客さまアンケートの意見を迅速に社内展開を実施し、タイムリーな改善が図れるよう努めている。またクレーム対応研修も取り入れ、お客さま対応力（サービス）の向上も図っている。															9		
30	□	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・メンテナンス車両や整備車両を通し、現場エンジニアとメーカー間で開発・設計への改善情報の共有を実施している。						6					12	13	14	15			
31	□	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	・県の「鳥獣対策・ジビエ振興」事業に参画し「ジビエカー」「ジビエジュニア」を開発・提供し課題解決に貢献。またデマンド交通「さくっと」を自治体と連携、運行、展開を行い地域の課題解決に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																		
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
32	□	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・オンデマンド交通バスや、店舗を災害時の受け入れ施設として設置し、当社が地域発展へ与える影響を踏まえた事業展開を行っている。				4						9		11	12		14	15		17	
33	□	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・環境に関する取組として、うっぴいの森の里親促進事業、グリーンキャンペーン（苗木寄贈21,149本）、地域美化活動（年2回）等。地域貢献として小学校へのトヨタ原体験プログラムの実施。				4								11			14	15		17	
34	□	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	・県の「鳥獣対策・ジビエ振興」事業に参画、県及び長野市と連携、「ジビエカー」「ジビエジュニア」を開発・提供し、地消地産、地産外商のサイクルに貢献。また県内不要木材を活用したウッドチップによるバイオマ									8	9		11	12	13					
35	□	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・経営理念を明文化、グループHPに公表している。また理念への行動として、行動規範6カ条を明文化の上カード化し従業員へ配布。SDGs取組と一体化を目指した心構えの教養を行い、経営理念の共有を行っている。										8	9							17	
36	□	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・朝礼・責任者会議や社内報、等で法令順守（コンプライアンス）重要性を全社員に発信。																		16	
37	□	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・専門部署、担当役員、および管理組織を明確にし体制を整えている。																		16	
38	□	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・各種会議やお客さまからの意見（お客さまアンケートやお客さまヘルプデスク等）、その他利害関係者との対話により自社活動の把握と的確な対応に努めている。																		16	17
39	□	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・事業単位で現場と担当部署が連携、リスク管理、およびマネジメント運営を行う整備をしている。																		16	
40	□	【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・「責任者会議」等を通じて経営理念とCSR（企業の社会的責任）を共有し、各事業戦略や営業対応に反映させ、責任ある対応に努めている。																		16	
41	□	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・事業継続計画（BCP）を策定し、災害時安否確認の訓練を定期的実施している。										9		11		13	13.1			16	
42	□	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・「モビリティカンパニー」の創造に向けた次世代人材の育成、登用を行う事に努めている。									8	9								17	

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
○交通事故死傷者ゼロ社会をめざした、事故防止施策の推進	・先進安全装備装着車両の推進 ・高齢者講習（ICS体験）の推奨強化 ・後付け踏み間違え加速抑制装置の推進 ・年4回の交通安全運動 ・保険一体型ドラレコ特約の推進			3	4							11						
○気候変動対策としてのカーボンニュートラル、脱炭素社会への取組	・CO2自社排出削減に向けた取組 ・再生エネルギー事業の展開と活用 ・ZEB化施設の展開 ・EV、HV、FCV、水素のCO2低排出車両の販売促進 今年度より専門部署（SDGs推進室）を設け、脱炭素に向けた計画と施設運営につき注力した取組みを行っている。							7				11		13				
○「モビリティ・カンパニー」変革チャレンジ	・自治体との地域連携によるデマンド交通バスの横展開。また既存導入自治体における体制構築、および深堀による制度確立。 ・各自治体を主体とした「産学官」連携による新たな「モビリティ・サービス」の開発と取組。			3						9		11						

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）

・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。

また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。

（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）